



こめづくり もりづくり ひとつくり

山村塾通信



「収穫の秋 大にぎわい」

収穫祭は晴天の中で総勢 153 名の参加があり、大にぎわいの日でした。稲作コースの棚田と集落、山々の風景を眺めながら、フルート演奏や自己紹介メドレーを楽しみ、脂ののったアイガモやイノシシの丸焼き、採れたての野菜やシイタケの天ぷら、サラダ、おでん、ぜんざい、新米の混ぜご飯をお腹いっぱいいただきました。定番となった丸太切り競争、大綱引き大会も盛況で、大人も子供も田んぼで笑顔いっぱいの良い収穫祭になったと思います。ご参加ご協力いただきました皆さんに御礼申し上げます。

一方、残念ながら定員オーバーで参加をお断りせざるを得なかった方もいらっしゃいました。今年になってからは特に、新規会員さんや一般の方の参加申込みが増えており、定員オーバーになる行事が多くなりました。皆さんにはご心配や残念な思いをさせてしまったこともあるかと思います。申し訳ありません。

そういったことを踏まえて、会員や理事、農家、職員らで、活動コースのリニューアルに関して議論を重ね、新しい会費設定による2020年度会員募集をスタートします。活動コースのリニューアル後は、年会費の金額設定が変更になるほか、活動コース会員さんからも行事参加費（食事代）をいただくようになります。これらは、引っ越しや子供の成長などにより参加が難しくなった方にも、継続して山村塾の取り組みを応援いただけるような会費設定を目指した結果です。また、行事当日の運営ボランティアを募集します。これは、お子さん連れや新しい参加の方が増えても、農家やスタッフと連携して、安全で楽しい活動をサポートいただくためです。子育てがひと段落した方やセカンドライフを楽しみたい方、学生さんなど若い方のご協力をお待ちしております。

少し形は変わりますが、中身はより一層の充実を目指していきたいと思います。今後とも、ご参加ご協力よろしくお願ひします！！（小森 耕太）



収穫祭 大綱引き大会

稲作コースより

6月の田植えから10月の稲刈りまでのあいだ、毎回の行事にたくさんのご参加ありがとうございました！今シーズンは初夏の雨不足、秋の豪雨に台風にも…と稲にも農家にとっても厳しい天候が続き、稲作コースの田んぼでも、水路が崩れたり、収穫量が例年より少なかったりなどの影響がありました。そんな中でもなんとか稲も鴨も育ち、今年も黄金色の田んぼで賑やかに稲刈りを行うことができました。

食べ物が食卓にのぼるまで、長い時間と手間がかかることを改めて実感した1年となりましたが、そのぶん収穫の喜びはひとしおです。収穫祭での新米おにぎり、鴨、本当においしかったですね。今年の米作りはこれにてひと段落。「おやつはおにぎり！」を合言葉に、みなさんお米をたくさん食べましょう！（原 愛子）



10/13 稲刈り

◆7月14日（日）「田の草取り」

参加者：32名（会員22、一般5、スタッフ5）
場所：四季菜館、棚田

◆8月25日（日）「鴨の引き上げ」

参加者：65名（会員51、一般8、スタッフ6）
場所：四季菜館、棚田

◆10月13日（日）「稲刈り」

参加者：90名（会員61、一般20、WC1、スタッフ8）
場所：四季菜館、棚田

◆10月26（土）～27（日）「鴨さばき」

参加者：39名（会員29、一般4、スタッフ6）
場所：四季菜館、レンガクボウの畑



8/25 鴨の引き上げ



10/26-27 鴨さばき

農家の声

11月末というのに、日中は20℃近くまで気温が上がる昨今！異常気象、気候変動、そして温暖化。今年も全国あちこちで大災害をもたらしましたね。7年前の笠原での大水害を思い出しますが、今年は笠原でも幾度となく心配するくらいの雨量で、数件ですが公民館に避難される方もいました。他人事ではない環境問題に心身ともに傾けないといけない時期が来ているような気がしてなりません。

見渡せば笠原も見事に紅葉の時期で、美しさを感じます。先日の収穫祭も大盛況に終わり、皆様方のご協力に毎年ながら感謝する次第です！そして今年最後の通信でもあり、年末恒例の農産物注文も含め来年もよろしく願いいたします。

思えば病院とやりに無縁だった我々（寿之・まり子）が、幾度となく通院し、少々歳を感じながら…、気力だけは十分に生かし（できる限り）これまでの思いは変わらず、前進のみ！

皆様におかれましても、来年もまたご清祥であられることを祈念いたします。

※農産物価格の値上げについて

椿原農園の農産物をいつもご利用いただきありがとうございます。消費税改定による農業資材や包材、送料などの値上がりにより、今年の3月から農産物や加工品の価格を値上げしております。

山村塾会員さん（稲作コースのお米60キロ含む）につきましては、据え置き価格で販売してきましたが、来年の4月からは一般のお客様と同様の価格設定に改めさせていただきます。

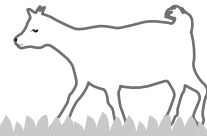
これからも椿原家一同、精一杯農作業に取り組んで参りますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。



先日、4歳の孫から「気のせいよ！」と言われ、唖然としている65歳の

四季菜館 椿原 まり子より

山林コースより



暑さが落ち着き秋がくると、いよいよ山仕事のシーズン！山林コースではこの秋、枝打ち、炭焼き、間伐を行いました。

11月の「間伐」はあいにくの雨だったので、ケヤキ林（山村塾の森づくりフィールド）や炭窯を見学し、午後は室内でグリーンウッドワーク（生木を使う木工）に挑戦しました。ケヤキ林から伐ってきた様々な広葉樹の材を手に取り、もくもくと削るみなさん…。意外と大人のほうが熱中していたかも？前日の里山ミニワークで行った炭焼きとあわせて、木を使う楽しさを感じた、木を身近に感じたという声が上がっていました。山林コースでは森の手入れをする活動が多いですが、こうして森の恵みを楽しむ活動もいいですね。冬は山林コースの活動がたくさん。寒いけれど、焚き火にあたりながらの作業も楽しいです！寒さに負けず、ご参加お待ちしております！（原 愛子）



ざくざく
枝打ちに夢中！

10/20 枝打ち

◆ 7月28日（日）「下草刈り」

参加者：15名（会員9、一般3、スタッフ3）

場所：ケヤキ林

◆ 10月20日（日）「枝打ち」

参加者：14名（会員6、一般3、スタッフ5）

場所：上松尾 まつたけ山

◆ 11月24日（日）「間伐」

参加者：18名（会員12、一般1、スタッフ5）

場所：ケヤキ林、えがおの森



削り馬に乗って
木を削ります！

11/24 間伐にて

大人も子どもも
グリーンウッドワークを
楽しみました！



黒木の手もあちこちで紅葉が見られるようになりました。先日の収穫祭はお疲れ様でした。前日からの準備に参加協力して頂いた方々本当にお疲れさまでした。我が家の近況ですが、収穫祭の後から本格的に椎茸の収穫が始まりました。また、椎茸原木の伐倒作業や、大雨で土砂の入った田んぼや壊れた水路の修復など、相変わらず忙しい日々を送っています。

今回は我が家で生産している椎茸の原木栽培について紹介したいと思います。原木栽培では、ほだ木と呼ぶ原木に椎茸の菌を植菌します。原木には、クヌギやコナラの木を使います。ちょうど今頃の時期に木を伐り、40～60日ほど倒したままの状態での水分を抜きます（葉枯らし）。その後110cmの長さに切り（玉切り）、山から運び出して1月～4月上旬頃に菌打ちをします。それが終わったものから、山林の中へ運び（ふせこみ）、その1年半～2年後にようやく椎茸の収穫が始まります。原木の寿命は3～4年で、この作業を毎年繰り返しながら生産を続けています。我が家の場合、1本のほだ木に16～20個、1年に5万個ほどの植菌をしています。

クヌギやコナラは伐り倒しても、切り株からまた新しい芽が伸びてきます。そのため原木椎茸を生産するという事は、里山の森林再生にもつながっています。原木椎茸を食べることは資源や産業を守ることに繋がり、ゆくゆくは海を守るという循環が生まれます。

原木椎茸はこの時期から市場に出回りますが、ひと手間を加えることで栄養価が高まります。ちょっと日光に干してから使うことで、ビタミンDの量が増え、グアニル酸という旨み成分も生まれます。保存はちょっと干して冷凍庫での保存がおすすめです。食物繊維も豊富で、乾燥シイタケは生の12倍もあるとか…。

これから山林コースでは、椎茸菌打ちや炭焼き、植林などを行います。またご参加お願いします。

山林コース
宮園 佐津美



ワークキャンプ レポート!!

奥八女芸農ワークキャンプ
(2019.8.24 ~ 10.10)

寄稿: 武田 力(演出家・民俗芸能アーカイバー)

山村塾と九州大学ソーシャルアートラボとが連携して実施されている「奥八女芸農プロジェクト」。昨年に引き続き、この企画で夏から秋にかけてお世話になりました。奥八女芸農プロジェクトは、日本の「芸」術と「農」業とはどのように関係し合いながら立脚できるのかという試みです。わたしの場合は民俗芸能という日本各地に古くから継がれている土着の表現を手掛かりに、国際ボランティアとともにその芸術と農業の関係性を奥八女の地で考えてきました。今年フランス、ベルギー、日本からの国際ボランティア4名に、台湾からの研究者1名の計5名での滞在となりました。



写真 / 富永亜希子

50日に及んだ滞在も終わりを迎えようとしていた頃、ひとりからこんな意見が出ました。「なぜ毎朝、掃除をしなければならぬのか理解できない」。毎朝汚れてもいけないのに掃除することに意味はないという声が聞かれました。「意味」という言葉を辞書で引くと「物事がある脈絡の中でもつ価値／重要性／意義」とあります。つまり、彼女の考える掃除とは埃などゴミを払う行為なのでしょう。わたしもそう思います。確かに掃除のもつ価値／重要性／意義とはゴミを除けることにあります。

ただ一方で、この笠原という土地で芸術と農業との関係性を民俗芸能の視座から考えるに、掃除の価値／重要性／意義とは、物理的にゴミを払ってその場を綺麗にするだけでもないように思えます。例えば、毎朝同じ廊下を掃除することで、普段は見落としていた汚れに気付いたりもするでしょう。また、綺麗／汚いといった感覚は主観的なものです。誰かにとっては汚い廊下でも、誰かにすれば綺麗な廊下とも捉えられる。では、その毎朝の掃除とは誰のための掃除なのか？ 自分ではその廊下が綺麗だと思っても、他者を意識して掃除をすること。なにより、わたしたちの滞在はかつての小学校という公共性を帯びた建物で、この土地で培われてきた生活の在り方を学ぶことにあるのです。

民俗芸能はまた、生活そのものと言えます。踊りや儀式に目を取られがちですが、民俗芸能は日常があって初めて成り立つ祭事です。そして日常にこそ、非日常とつながる回路は隠されている。毎朝掃除することでようやくみえてくる汚れは、非日常の現出ともいえます。日常を丁寧にきちんと過ごすことは、非日常と触れる行為でもあるのです。そうした日常と非日常との絶え間ないさやかな往還が日本人の暮らしを形成してきたのでしょう。

今回の滞在では高齢者福祉施設よかよかにも通わせていただきました。80歳～100歳を間近にした利用者の方々から、かつての奥八女での生活やその中で大切にしてきたことを教えていただきました。そうして伺った話に基づいて、遠方からの出稼ぎ人とともに集落総出で茶葉を揉んでいた時代に唄われた『八女茶山唄』に合わせた踊りをつくりました。その振りを付けていくとき、ひとりの利用者さんの言葉がずっと頭に残っていました。「自身を律しながら、みんなで助け合いながら仕事をし、生活する姿を見せ合って生きてきた」。生活することを蔑ろにしない生き方がここに現れているように思えます。



笠原の福祉施設「よかよか」のみなさんと

この秋、九州大学ソーシャルアートラボと連携し、2年目となる「奥八女芸農ワークキャンプ」を開催しました。昨年に続きアーティストの武田力さんと、国内外から集った4名のワークキャンプメンバーが共にえがおの森に滞在しながら、棚田の草刈りなどの農作業とアートプロジェクトに取り組みました。

今回のテーマは笠原の人々との交流を通じ、笠原に新たな芸能を生み出すこと。その成果として、八女の民謡「八女茶山唄」に合わせた踊り「八女茶山おどり」が創作され、10月5日に行われた発表会では、地域のみなさんと一緒に輪になっておどりを踊りました。



台日交流ワークキャンプ (2019.7.18 ~ 26) レポート：丸山 大貴 (リーダー)

7月18日から26日の9日間、台湾人8名と日本人2名のボランティアが集まり、里山や水田、畑での仕事について学びました。

この数日間、私たちは水田での雑草取りの他、畑でのラッキョウ収穫と加工のワークをし、また互いの文化に触れながら生活をしました。お米に関しては、自分で作らないとわからないものですが、とてもきつい仕事です。今回のワークは雨の中での作業で大変でしたが、水田で雑草と稲を見分けることがさらに大変でした。初めは皆、それらをきちんと見分けることができませんでした。ラッキョウの仕事もあわせて、同じ作業の繰り返しでしたが、皆楽しむことができました。作業中の笑い声、どこからか聞こえましたか？ (笑)

農作業の傍ら、地元の神社のお祭りや、黒木の夏祭り、八女茶や竹のワークショップにも参加し、日本文化を体験しました。



田んぼの草取り

今回のプロジェクトでは、多くのボランティアが大変満足していました。このような機会を得て、日本を違った角度から見る事ができたこと、そして山村塾のメンバーとして短期間ではあるものの活動をできたことを嬉しく思っています。



集落の神社のお祭りにて

その他の活動報告

～8月～

- 8/2 (金) ~ 4 (日) 「山村たんけんキャンプ」
参加者 34名 (会員 13、一般 10、WC1、スタッフ 10)
場所：四季菜館、ケヤキ林、田んぼ
- 8/31 (土) ~ 9/1 (日) 里山ミニワーク「棚田の草刈り」
参加者 11名 (会員 5、一般 2、スタッフ 4)
場所：四季菜館、笹原の棚田、レンガクボウの畑

～9月～

- 9/23 (月・祝) 「棚田と彼岸花の見学ツアー」
参加者 33名 (会員 8、一般 10、WC6、スタッフ 9)
場所：笠原地区内の棚田

～11月～

- 11/10 (土) 収穫祭準備@四季菜館
参加者 25名 (会員 7、一般 0、WC1、スタッフ 17)
- 11/11 (日) 収穫祭@四季菜館・棚田
参加者 153名 (会員 95、一般 40、WC1、スタッフ 17)
- 11/23 (土) ~ 24 (日) 里山ミニワーク「炭焼き・間伐」
参加者 14名 (会員 8、一般 0、スタッフ 6)
場所：炭窯

楽しかったね！

山村たんけんキャンプ／



8/2 ~ 4の3日間、子どもキャンプを開催しました！20名の子どもたちは暑さに負けず、山や田んぼや畑で元気いっぱいにお過ごししました。一番人気はやっぱり川遊び。泳いだり、飛び込んだり、魚を捕まえたりと思いつきに川を楽しみました。遊びだけでなく、夕食づくりや早朝の野菜収穫、田んぼの草取りもがんばりました。いろんなことに一生懸命に挑戦する子どもたちの姿、とても頼もしかったです。来年も待ってるよー！

山村塾ニュース

◆山村塾の年次報告書ができました！

このたび初めての試みとして、山村塾の2018年度年次報告書を作成しました！これまで山村塾通信だけではまとめきれなかった山村塾の多岐にわたる活動を、わかりやすくお伝えするためのものとして作成しました。今後、毎年発行する予定です。(それに合わせて、山村塾通信の発行も年4回から3回になります。) 製作にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。感想もぜひお寄せください！

※ HP からも見れます ☞ <http://sansonjuku.com/about/report>



今後の予定

日程	行事名
2020/1/11 (土)	「左義長準備」
1/12 (日)	全体行事「左義長」
2/2 (日)	山林コース「しいたけ菌打ち」
2/15 (土) ~ 16 (日)	里山ミニワーク 「農産加工(納豆・味噌)」
2/23 (日)	山林コース「植林」
3/8 (日)	山林コース「炭焼き」

【イベント参加についての注意！】

◆お申込み

どのイベントも、どなたでも参加頂けます(定員、一部年齢制限あり)。事前申し込み制です。事務局までWEBフォーム、メール、電話、FAXでお申込みください。

◆申込期間

- ・1次×切：開催1か月前～9日前まで。先着順。一般の方は一般の定員の範囲内で受け付けます。
- ・2次×切：開催8日前～4日前まで。
会員・一般とも全体の定員の範囲内で受け付けます。

◆イベントの詳細について

ホームページ、facebook、チラシ等でイベントの詳細をお知らせしています。詳しくは事務局までお問い合わせください。

事務局より



特例認定 NPO 法人山村塾 会員募集！

- 会員の種類は、総会での議決権を持つ正会員と議決権を持たない賛助会員の2種類です。
- いっしょに田んぼや山で働く、活動コース(稲作・山林、稲作、山林、古里)の加入をお待ちしております！

ご寄付のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄付で支えられています。ご協力のほどよろしく願いいたします。＜ヤマヤマ基金＞農山村の環境を守る活動全般に役立てられます。

＜平成29年豪雨支援＞山村塾では寄付を活用し、朝倉市黒川地区の復興を支援します。

■郵便振込口座から

加入者名：特定非営利活動法人山村塾

口座番号：01790-3-169398

※通信欄にどちらのへのご寄付かご記入下さい。

■銀行から

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：一七九(店番：179)

口座：当座 0169398

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレス、寄付先をお知らせ下さい。

■農産物を買う：会員の方が、椿原家と宮園家の農産物・林産物を購入されると、その一割がヤマヤマ基金へ入ります。

◎年会費納入 以下の方々から年会費を納入いただきました。ありがとうございます。(10/31入金まで。敬称略)

■正会員：榎戸のどか(稲作)、東島健(稲作)、小森文子(山林)、萩尾孝博(山林)、福西勝(山林)、濱岡謙二(古里)、椿原寿之、椿原まり子、小森耕太、原愛子、武藤久登、永井弘子、澤田基行(稲作)、鄭賢哲(稲作・山林)

■賛助会員：井上俊次、山下慧(古里)、前島美江、油機エンジニアリング株式会社、仁田原周作

◎寄付者 以下の方々から頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。(10/31入金まで。敬称略)

■ヤマヤマ基金：川崎光洋、永井弘子、萩尾孝博、椿原勇人、松延正博、三好朋子、細田正虎、細田修平、雪松直子、有限会社朝日屋酒店、松本明子、柴尾悠、池尾久美、追立隆男、井上俊次、松尾綾

■笠原復興基金：かつてに林業を応援する会

◎企業・団体からの寄付

■8/6、株式会社かんぼ生命保険様から1,000,000円のご寄付をいただきました。「いろいろな生き物が住む森づくり(山林コース活動とパッチワークの森づくり活動)」と「グリーンウッドワーク」に活用させていただきます。

■古本募金きしゃぼん様を通じてご寄付をいただきました。(7/19：21,401円、8/27：1,720円、9/20：1,247円、10/18：1,560円)

★古本で寄付ができます！

古本やDVDを「きしゃぼん」にお送りいただくと、買取金額が山村塾への寄付となります。ぜひご協力をお願いします。(古本集荷依頼 TEL：0120-29-7000、山村塾に寄付したい旨をお伝えください。)

*ニュースレター 電子配信のご案内

山村塾通信やチラシなどの山村塾からのおたよりを郵送ではなく、PDFなどの形式でメールで受け取りたい方は、事務局までお知らせください。



山村塾 特例認定 NPO 法人 山村塾

〒834-1222 福岡県八女市黒木町笠原 9836-1

TEL・FAX 0943-42-4300

Email: info@sansonjuku.com HP http://sansonjuku.com

FB https://www.facebook.com/sansonjuku

発行者：小森 耕太

編集者：原 愛子

※山村塾は特例認定 NPO 法人です。山村塾へのご寄付は寄付金控除の対象となります。